

校種・教科等	高等学校 理科 物理	受審番号	氏名
--------	---------------	------	----

『高等学校理科（物理基礎）』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1学年〇組教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇組(35名) 使用教科書 物理基礎(啓林館)

(4) 単元名 第3部 波

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

- ・波の性質について、中学校では、第1分野「(1)身近な物理現象」で、音の高さや大きさと発音体の振動との関係及び音の伝わる速さなどを学習し、第2分野「(2)大地の成り立ちと変化」で、地震波の伝わり方について学習している。
- ・音と振動について、中学校では、第1分野「(1)身近な物理現象」で、音について、発音体の振動、振動数、振幅及び音を伝える物質の存在などを学習している。

【単元のねらい】

- ・波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解させ、それらの観察、実験などの技能を身に付けさせるとともに、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである。その際、音に限らず身の回りには多くの波動現象が存在することに気付かせる。

【生徒の状況】

- ・学習態度は落ち着いており、物理に興味をもっている生徒が多い。
- ・指数などの計算やグラフの読み取りが苦手な生徒が多い。
- ・ペア活動やグループ活動に対して積極的に取り組むことができる生徒が多い。
- ・自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する力が弱い生徒が多い。

(6) 指導計画(全12時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (3時間)	【波の伝わり方】 ・身近な波の現象に関心を持ち、波の伝わり方と正弦波について理解する。 ・波を表す基本的な量の関係について理解し、波形の移動における振動数や位相について、媒質の振動を関連づけて考え、自分の考えを表現する。 ・波には縦波と横波があり、それぞれの違いを理解し、波がエネルギーと情報を運ぶことについて考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第二次 (3時間)	【波の性質】 ・波動実験器などを用いて、波の伝わり方を観察し、波の独立性と重ね合わせの原理を理解する。 ・波の性質と媒質の端の違いによる反射波の性質を理解する。 ・定在波について理解し、反射波の種類を考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第三次 (2時間・ 本時1/2)	【音波の性質】 ・音波と音の三要素などの性質と、可聴音や超音波について理解する。 (1時間:本時)教科書P. 168～171	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	・うなりの現象について観察や作図を通して理解し、身近な現象と関連付けて考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第四次 (4時間)	【音源の振動】 ・共振現象の実験や観察を行い、それらの規則性を見いだすとともに、身近な現象と関連付けて考え、自分の考えを表現する。 ・弦の振動による定常波の特徴を考察し、基本音と倍音の関係を見いだして理解する。 ・弦にできる定常波の実験により弦を伝わる波の速さの規則性を見いだす。 ・開管、閉管内の気柱の振動による定常波の特徴を見いだすとともに、気柱の共鳴について実験を通して理解する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高等学校 理科 物理	受審番号	氏名	
--------	---------------	------	----	--

『高等学校理科（物理基礎）』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)

(2) 場 所 1学年〇組教室

(3) 学年・学級 第1学年〇組(35名)

使用教科書 物理基礎(啓林館)

(4) 単 元 名 第3部 波

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

- ・波の性質について、中学校では、第1分野「(1)身近な物理現象」で、音の高さや大きさと発音体の振動との関係及び音の伝わる速さなどを学習し、第2分野「(2)大地の成り立ちと変化」で、地震波の伝わり方について学習している。
- ・音と振動について、中学校では、第1分野「(1)身近な物理現象」で、音について、発音体の振動、振動数、振幅及び音を伝える物質の存在などを学習している。

【単元のねらい】

- ・波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解させ、それらの観察、実験などの技能を身に付けさせるとともに、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである。その際、音に限らず身の回りには多くの波動現象が存在することに気付かせる。

【生徒の状況】

- ・学習態度は落ち着いており、物理に興味をもっている生徒が多い。
- ・指数などの計算やグラフの読み取りが苦手な生徒が多い。
- ・ペア活動やグループ活動に対して積極的に取り組むことができる生徒が多い。
- ・自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する力が弱い生徒が多い。

(6) 指導計画(全12時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (3時間・ 本時1/3)	【波の伝わり方】 ・身近な波の現象に関心を持ち、波の伝わり方と正弦波について理解する。 (1時間:本時)教科書P. 144~146	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	・波を表す基本的な量の関係について理解し、波形の移動における振動数や位相について、媒質の振動を関連づけて考え、自分の考えを表現する。 ・波には縦波と横波があり、それぞれの違いを理解し、波がエネルギーと情報を運ぶことについて考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第二次 (3時間)	【波の性質】 ・波動実験器などを用いて、波の伝わり方を観察し、波の独立性と重ね合わせの原理を理解する。 ・波の性質と媒質の端の違いによる反射波の性質を理解する。 ・定在波について理解し、反射波の種類を考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第三次 (2時間)	【音波の性質】 ・音波と音の三要素などの性質と、可聴音や超音波について理解する。 ・うなりの現象について観察や作図を通して理解し、身近な現象と関連付けて考え、自分の考えを表現する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第四次 (4時間)	【音源の振動】 ・共振現象の実験や観察を行い、それらの規則性を見いだすとともに、身近な現象と関連付けて考え、自分の考えを表現する。 ・弦の振動による定常波の特徴を考察し、基本音と倍音の関係を見いだして理解する。 ・弦にできる定常波の実験により弦を伝える波の速さの規則性を見いだす。 ・開管、閉管内の気柱の振動による定常波の特徴を見いだすとともに、気柱の共鳴について実験を通して理解する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

06

校種・教科等	高校・理科 (化学)	受審番号		氏名	
--------	---------------	------	--	----	--

『高等学校理科（化学基礎）』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 化学教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇組(30名) 使用教科書(「化学基礎」東京書籍)【2東書 化基 701】

(4) 単 元 名 3編 物質の変化 2章 酸と塩基

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中学校では、第1分野「(6)ア(ア)水溶液とイオン」で、酸とアルカリの性質や中和により水と塩が生成すること、pHは7を中性として酸性やアルカリ性の強さを表していることについて学習している。

【単元のねらい】

- ・化学反応について、酸・塩基と中和を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(知識及び技能)
- ・化学反応について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・酸・塩基と中和に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。
(学びに向かう力、人間性等)

【生徒の状況】

- ・計算を苦手とする生徒が多く、物質量や化学反応式について理解と定着に課題がある。
- ・化学に興味があり、観察・実験に積極的に取り組むが、実験の目的を十分に理解していない生徒が多い。
- ・化学に関連する事象についてこれまでの知識を活用して思考し、表現することを苦手とする生徒が多い。

(6) 指導計画(全 12 時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次(3時間)	【1節 酸と塩基】 ・酸と塩基の性質、定義について理解する。 ・酸と塩基の価数について理解する。 ・電離度について学習し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いについて考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度
第二次(3時間)	【2節 水素イオン濃度とpH】 ・水の電離について学習する。 ・酸性・塩基性と水素イオン濃度の関係について考察する。 ・水素イオン濃度、水酸化物イオン濃度の求め方を理解する。 ・酸性・塩基性とpHの関係について理解し、酸・塩基の希釈によるpHの変化について考察する。 ・pH指示薬と変色域を学習し、水溶液のpHについて考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度
第三次(2時間)	【3節 中和反応と塩】 ・中和反応と塩の生成について理解する。 ・塩の種類について学習し、塩の水溶液の性質について考察する。 (P.132~134 問10まで)	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表
(本時1/2)	・弱酸の遊離、弱塩基の遊離について実験観察を行い、得られた結果を分析し、反応について考察する。	一斉 個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度
第四次(4時間)	【4節 中和滴定】 ・中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 ・弱酸と強塩基の中和反応について考察し、酸・塩基の強弱が中和反応の量的関係に影響しないことに気付く。 ・中和滴定に使用する器具の使い方を学習し、中和滴定の実験操作における技能を身に付ける。 ・中和滴定の実験観察を行い、得られた結果を分析し、解釈する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、中和滴定における適切な指示薬について考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度

注)「思・判・表」とは「思考・判断・表現」、「主体的態度」は「主体的に学習に取り組む態度」の略

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

06

校種・教科等	高校・理科 (化学)	受審番号		氏名	
--------	---------------	------	--	----	--

『高等学校理科（化学基礎）』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 化学教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇組(30名) 使用教科書(「化学基礎」東京書籍)【2東書 化基 701】

(4) 単 元 名 3編 物質の変化 2章 酸と塩基

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中学校では、第1分野「(6)ア(ア)水溶液とイオン」で、酸とアルカリの性質や中和により水と塩が生成すること、pHは7を中性として酸性やアルカリ性の強さを表していることについて学習している。

【単元のねらい】

- ・化学反応について、酸・塩基と中和を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(知識及び技能)
- ・化学反応について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・酸・塩基と中和に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。
(学びに向かう力、人間性等)

【生徒の状況】

- ・計算を苦手とする生徒が多く、物質量や化学反応式について理解と定着に課題がある。
- ・化学に興味があり、観察・実験に積極的に取り組むが、実験の目的を十分に理解していない生徒が多い。
- ・化学に関連する事象についてこれまでの知識を活用して思考し、表現することを苦手とする生徒が多い。

(6) 指導計画(全 12 時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次(3時間)	【1節 酸と塩基】 ・酸と塩基の性質、定義について理解する。 ・酸と塩基の価数について理解する。 ・電離度について学習し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いについて考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度
第二次(3時間)	【2節 水素イオン濃度とpH】 ・水の電離について学習する。 ・酸性・塩基性と水素イオン濃度の関係について考察する。 ・水素イオン濃度、水酸化物イオン濃度の求め方を理解する。 ・酸性・塩基性とpHの関係について理解し、酸・塩基の希釈によるpHの変化について考察する。 ・pH指示薬と変色域を学習し、水溶液のpHについて考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度
第三次(2時間)	【3節 中和反応と塩】 ・中和反応と塩の生成について理解する。 ・塩の種類について学習し、塩の水溶液の性質について考察する。 ・弱酸の遊離、弱塩基の遊離について実験観察を行い、得られた結果を分析し、反応について考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度
第四次(4時間)	【4節 中和滴定】 ・中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 ・弱酸と強塩基の中和反応について考察し、酸・塩基の強弱が中和反応の量的関係に影響しないことに気付く。 (P. 136~137)	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表
	・中和滴定に使用する器具の使い方を学習し、中和滴定の実験操作における技能を身に付ける。 ・中和滴定の実験観察を行い、得られた結果を分析し、解釈する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、中和滴定における適切な指示薬について考察する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度

注)「思・判・表」とは「思考・判断・表現」、「主体的態度」は「主体的に学習に取り組む態度」の略

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高校・理科 生物	受審番号	氏名	
--------	----------	------	----	--

『高等学校理科（生物基礎）』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年4月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年〇H教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇H(38名) 使用教科書(「高等学校 生物基礎」啓林館)【61 啓林館 生基 705】
 (4) 単 元 名 第1部 生物の特徴 第1章 生物の特徴

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中学校では、第2分野「(1) いろいろな生物とその共通点」で、生物が共通点と相違点を基にして分類できること、「(3) 生物の体のつくりと働き」で、生物の体が細胞からできていること、植物は光合成と呼吸を行うこと、動物は消化と呼吸を行うこと、「(5) 生命の連続性」で、遺伝子の本体がDNAであること、生物が長い時間の経過の中で変化してきたことについて学習している。

【単元のねらい】

- ・生物の特徴について、その共通性と多様性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。(知識・技能)
- ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。(思考・判断・表現)
- ・生物の共通性と多様性に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養うこと。(主体的に学習に取り組む態度)

【生徒の状況】

- ・教育課程上、1年次では物理基礎と生物基礎が必履修となっており、化学基礎は未履修である。
- ・高等学校に入学して間がない時期であること、生物基礎の最初の単元であることから、生徒の状況を十分に把握することはできていないが、授業についていけないかどうか不安に感じている生徒が多いことが予想される。
- ・本校の生徒に例年見られる傾向として、ペア活動やグループ活動に対して積極的に取り組むことができるが、自分の考えをまとめ、言葉や文章で表現する能力はあまり高くなく、単語や主語・目的語のない短文で答える傾向が強い。また、学習態度は落ち着いたものの、理科に対する興味や関心はあまり高くない。

(6) 指導計画(全7時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次(3時間)	【A 生物がもつ特徴】		
	・生物には、共通性と多様性が見出されること、生物は進化の過程で共通性を保ちながら多様化してきたことを理解する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	(探究1-1) ディスカッションなどの活動を通して、全ての生物に共通する特徴は何かや、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えられている根拠を見出し、自分の考えを表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度
	(探究1-2) 資料から、様々な生物の共通点と相違点を見出し、多様な生物群が単一の共通先祖から進化し、多様化してきたことについての理解を深めるとともに、図や文章によって生物の系統関係を表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度
第二次(1時間)	【B 細胞と生物】		
(本時 4/7)	・単細胞生物の構造とその働き、多細胞生物の器官の働き、細胞と組織の多様性や階層性について理解する。 P30～33	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
第三次(3時間)	【C 細胞の構造】		
	・真核細胞に見られる様々な細胞小器官の名称と働きを理解し、動物と植物の細胞の共通点と相違点を説明することができる。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	・原核生物・原核細胞の成り立ちを理解し、真核細胞と比較しながら、両者の共通点と相違点を見出すことができる。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	(探究1-3) 資料から、原核生物と真核生物の共通点と相違点を見出し、ディスカッションを通じてその系統関係を考察し、共通先祖から進化してきた道筋を図によって表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度

注)「思・判・表」とは「思考・判断・表現」、「主体的態度」は「主体的に学習に取り組む態度」の略

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

『高等学校理科（生物基礎）』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年4月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年〇H教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇H(38名) 使用教科書(「高等学校 生物基礎」啓林館)【61 啓林館 生基 705】
 (4) 単 元 名 第1部 生物の特徴 第1章 生物の特徴

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中学校では、第2分野「(1) いろいろな生物とその共通点」で、生物が共通点と相違点を基にして分類できること、「(3) 生物の体のつくりと働き」で、生物の体が細胞からできていること、植物は光合成と呼吸を行うこと、動物は消化と呼吸を行うこと、「(5) 生命の連続性」で、遺伝子の本体がDNAであること、生物が長い時間の経過の中で変化してきたことについて学習している。

【単元のねらい】

- ・生物の特徴について、その共通性と多様性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。(知識・技能)
- ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。(思考・判断・表現)
- ・生物の共通性と多様性に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養うこと。(主体的に学習に取り組む態度)

【生徒の状況】

- ・教育課程上、1年次では物理基礎と生物基礎が必履修となっており、化学基礎は未履修である。
- ・高等学校に入学して間がない時期であること、生物基礎の最初の単元であることから、生徒の状況を十分に把握することはできていないが、授業についていけないかどうか不安に感じている生徒が多いことが予想される。
- ・本校の生徒に例年見られる傾向として、ペア活動やグループ活動に対して積極的に取り組むことができるが、自分の考えをまとめ、言葉や文章で表現する能力はあまり高くなく、単語や主語・目的語のない短文で答える傾向が強い。また、学習態度は落ち着いたものの、理科に対する興味や関心はあまり高くない。

(6) 指導計画(全7時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次(3時間)	【A 生物がもつ特徴】		
(本時 1/7)	・生物には、共通性と多様性が見出されること、生物は進化の過程で共通性を保ちながら多様化してきたことを理解する。P24～29	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	(探究1-1) ディスカッションなどの活動を通して、全ての生物に共通する特徴は何かや、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えられている根拠を見出し、自分の考えを表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度
	(探究1-2) 資料から、様々な生物の共通点と相違点を見出し、多様な生物群が単一の共通祖先から進化し、多様化してきたことについての理解を深めるとともに、図や文章によって生物の系統関係を表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度
第二次(1時間)	【B 細胞と生物】		
	・単細胞生物の構造とその働き、多細胞生物の器官の働き、細胞と組織の多様性や階層性について理解する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
第三次(3時間)	【C 細胞の構造】		
	・真核細胞に見られる様々な細胞小器官の名称と働きを理解し、動物と植物の細胞の共通点と相違点を説明することができる。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	・原核生物・原核細胞の成り立ちを理解し、真核細胞と比較しながら、両者の共通点と相違点を見出すことができる。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
	(探究1-3) 資料から、原核生物と真核生物の共通点と相違点を見出し、ディスカッションを通じてその系統関係を考察し、共通祖先から進化してきた道筋を図によって表現する。	個別 ペア グループ	思・判・表 主体的態度

注)「思・判・表」とは「思考・判断・表現」、「主体的態度」は「主体的に学習に取り組む態度」の略

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

『高等学校理科（生物基礎）』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年4月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年〇H教室
 (3) 学年・学級 第1学年〇H(38名) 使用教科書(「高等学校 生物基礎」啓林館)【61 啓林館 生基 705】
 (4) 単 元 名 第1部 生物の特徴 第1章 生物の特徴

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中学校では、第2分野「(1) いろいろな生物とその共通点」で、生物が共通点と相違点を基にして分類できること、「(3) 生物の体のつくりと働き」で、生物の体が細胞からできていること、植物は光合成と呼吸を行うこと、動物は消化と呼吸を行うこと、「(5) 生命の連続性」で、遺伝子の本体がDNAであること、生物が長い時間の経過の中で変化してきたことについて学習している。

【単元のねらい】

- ・生物の特徴について、その共通性と多様性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。(知識・技能)
- ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。(思考・判断・表現)
- ・生物の共通性と多様性に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養うこと。(主体的に学習に取り組む態度)

【生徒の状況】

- ・教育課程上、1年次では物理基礎と生物基礎が必履修となっており、化学基礎は未履修である。
- ・高等学校に入学して間がない時期であること、生物基礎の最初の単元であることから、生徒の状況を十分に把握することはできていないが、授業についていけないかどうか不安に感じている生徒が多いことが予想される。
- ・本校の生徒に例年見られる傾向として、ペア活動やグループ活動に対して積極的に取り組むことができるが、自分の考えをまとめ、言葉や文章で表現する能力はあまり高くなく、単語や主語・目的語のない短文で答える傾向が強い。また、学習態度は落ち着いたものの、理科に対する興味や関心はあまり高くない。

(6) 指導計画(全7時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次(3時間)	【A 生物がもつ特徴】 ・生物には、共通性と多様性が見出されること、生物は進化の過程で共通性を保ちながら多様化してきたことを理解する。 (探究1-1) ディスカッションなどの活動を通して、全ての生物に共通する特徴は何かや、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えられている根拠を見出し、自分の考えを表現する。 (探究1-2) 資料から、様々な生物の共通点と相違点を見出し、多様な生物群が単一の共通先祖から進化し、多様化してきたことについての理解を深めるとともに、図や文章によって生物の系統関係を表現する。	一斉 個別 ペア グループ 個別 ペア グループ 個別 ペア グループ	知識・技能 思・判・表 主体的態度 思・判・表 主体的態度
第二次(1時間)	【B 細胞と生物】 ・単細胞生物の構造とその働き、多細胞生物の器官の働き、細胞と組織の多様性や階層性について理解する。	一斉 個別 ペア グループ	知識・技能
第三次(3時間)	【C 細胞の構造】 (本時 5/7) ・真核細胞に見られる様々な細胞小器官の名称と働きを理解し、動物と植物の細胞の共通点と相違点を説明することができる。P34~40 ・原核生物・原核細胞の成り立ちを理解し、真核細胞と比較しながら、両者の共通点と相違点を見出すことができる。 (探究1-3) 資料から、原核生物と真核生物の共通点と相違点を見出し、ディスカッションを通じてその系統関係を考察し、共通先祖から進化してきた道筋を図によって表現する。	一斉 個別 ペア グループ 一斉 個別 ペア グループ 個別 ペア グループ	知識・技能 知識・技能 思・判・表 主体的態度

注)「思・判・表」とは「思考・判断・表現」、「主体的態度」は「主体的に学習に取り組む態度」の略

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。